○中略　正二位行權大納言兼皇太后宮大夫藤原朝臣道兼宣、奉勅、依請者、○中略

（正暦元年）永祚二年二月十四日　○署所略ス、

〔御堂關白記〕　○陽明文庫所藏　寛弘元年五月

廿四日、丁未、○中略　召御前、有僧綱召事、○中略　權律師如源、權少僧都明救退辞レ所、

〔權記〕　寛弘八年四月

廿七日、庚午、參內、有任僧綱事、○中略　大僧都○中略　明救、前少僧都、避職讓如源律師也、○中略　權少僧都林懐・如源、一藡律師清壽以有不淨之聞、被越二人云々、此事衆人所歎也、

〔一身阿闍梨補任次第〕　○中村雅眞氏所藏文書所收

一身阿闍梨

○上略　如源　權少僧都、太政大臣公季公〔息〕ー、

〔法中補任〕　寶幢院撿挍次第　號院主、

座主明救代　如源少僧都　寛仁三年任歟、慈忍（尊禪）・明救兩座主弟子、閑院太政大臣公季公息、二年、○法家相

承次第所收西塔院主次第同ジ、

〔尊卑分脈〕　藤原氏公季公孫

權律師明救ノ讓ル所

清壽ヲ超越シテ權少僧都ニ任ゼラル

延暦寺寶幢院檢校

世系

公季　太政大臣、從一位、內大臣、左大將、東宮傅、按察使、春宮大夫、參議、侍從、輦車、牛車、兵仗、母康子內親王、醍醐皇女、長元二十七薨、七十三、贈正一位、諡仁義公、封甲斐國、號閑院、

頭ー實成　中納言、正二位、左兵衛督、右衛門督、中宮權亮、少納言、太宰帥、檢別當、母兵部卿三品有明親王女、長暦二五十九坐事除名、同四年復任、寛治元十二十薨、（五十四、マヽ）

ー親賢　兵部大輔、從四位上、但猶子云々、母、

勸ー信覺　法務、僧正、東寺一長者、東大寺別當、蒙輦車宣、祈雨賞、覺源僧正資、又仁海受法、母、號勸修寺僧正、應德元九十五入滅、

山ー如源　少僧都、寛仁五四十九入滅、四十五、母同實成、（マヽ）

ー女子　義子、從二位、一條院女御、弘徽殿、母同、萬壽三十二十八出家、五十三、天喜元閏七、薨、

如源ト藤原行成

〔伏見宮御記錄〕　利一權記　長德四年七月

四日、詣內府（公季）、訪兵部大輔（藤原親賢）・禪師君（如源）所惱、

行成如源ノ病ヲ見舞フ

〔權記〕　長保四年二月

十三日、己卯、○中略　如源闍梨來、問法、

行成法ヲ問フ

寛弘二年十一月

六日、庚戌、○中略　詣閑院、訪如源律師、

如源閑院ニ在リ

○如源、東三條院藤原詮子ノ奉爲ノ一條院法華御八講ニ、錫杖ヲ勤ムルコト、**長保四**年十月二十二日ノ條ニ、尋禪ノ贈諡ノ慶ヲ申スコト、**寛弘四**年二月十五日ノ條ニ、藤原道

長ノ淨妙寺多寶塔供養ノ衲衆ト爲ルコト、同年十二月二日ノ條ニ、道長ノ比叡山ニ於ケル舍利會ニ參會スルコト、同六年五月十七日ノ條ニ、一條天皇七々日御法事ノ百僧ニ定メラル、コト、同八年六月二十五日ノ條ニ、資子內親王ノ御葬事ニ參仕スルコト、長和四年四月二十六日ノ條ニ、觸穢ニ依リテ、臨時仁王會ノ請僧ヨリ除カル、コト、同年五月十五日ノ條ニ、道長五十ノ賀ノ法會ニ、唄師ヲ勤ムルコト、同年十月二十五日ノ條ニ、僧綱トシテ、內裏ニ參入シテ、後一條天皇ノ御卽位ヲ賀シ奉ルコト、同五年二月二十七日ノ條ニ見ユ、

年五十七

十九日、甲子、吉田祭、

〔日本紀略〕後一條院　四月十九日、甲子、吉田祭、

權律師叡効寂ス、

〔僧綱補任〕乾○彰考館本　律師叡効（權律師）　四月十九日卒、五十七、

〔僧綱補任〕三○興福寺本

四月十八日寂ストノ說　五十六歲トノ說

官歷

天台宗

延曆寺ノ僧　法性寺阿闍梨　播磨ノ人

護持僧　那智行業者

權律師叡効（朱書）「四月十八日入滅、五十七、」

〔歷代皇紀〕二後一條裏書　律師睿効　治安元年四月卒、五十六、有驗人也、

〔僧綱補任〕三○興福寺本

法橋叡効　寬仁元年十二月廿五日敍、（朱書、下同ジ）「五十三、」播磨國人、「春公阿闍梨入室、」二年八月廿日任權律師、天台宗、□（延曆寺カ）「五十四、」依東宮（敦良親王）御瘧病加持驗也、□治安元年「四月十八日入滅、五十七、」

〔僧綱補任〕乾○彰考館本

法橋叡効　修行業延曆寺、寬仁元年十二月廿六日敍、五十二、（マヽ）法性寺阿闍梨、慈覺（圓仁）大師門徒、阿闍梨春台（公カ）入室、同二年八月十九日任律師、五十四、元法橋、播磨國人也、東宮御瘧（瘧）病御加持賞、治安元年四月十九日卒、五十七、

〔護持僧補任〕後一條天皇

山阿闍梨　竹○西竹御記

睿助（叡効）法橋　春公闍梨弟子、那智行業者、寬仁元十二廿五敍法橋、御持僧勞、治安元四十九卒、五十七、

〔小右記〕○前田家本　寬仁元年十二月

法橋

東宮ノ御瘧病ヲ加持シテ權律師ニ任ゼラル

驗者敦成親王ノ御誕生ニ際シ物怪ノ調ふいかう仕ス

廿七日、辛卯、宰相注送云、去夕有僧綱召、○中略法橋叡教、

廿八日、丙辰、○中略法橋叡教來、相逢、

〔左經記〕寛仁元年十二月

廿六日、庚寅、○中略今日有僧綱召云々、○中略法橋叡効、

〔御堂關白記〕○陽明文庫本　寛仁二年八月

十九日、戊申、東宮御惱從朝溫給、叡教參入後宜御座、廿七日酉時許發給、今夜多過時刻、仍叡教任權律師、還寺、余授馬、大宮給御衣、而後亥了許又發給、不知爲方、○寛仁二年八月十九日ノ第二條參看、

〔二中歴〕十三名人歴　驗者　叡効　律師、已上山、

〔紫式部日記〕○上略、敦成親王御生誕ノコトニカヽル、いまとせさせ給ふほと、御ものゝけのねたみのゝしるこゑなとの、むくつけさよ、○中略同上、宰相のきみ、をき人にゑいかうをそへたるに、夜一よのゝしりあかして、聲もかれにたり、御ものゝけうつれとめしいてたる人々も、みなうつらて、さはかれけり、午の時に、空はれてあさ日さし出たる心地す、

〔續古事談〕四神社佛寺　巖間寺正法寺トイフ、山城國宇治ノ郡上醍醐ノ奥ノ笠取山ノ東ノ峯也、越ノ小大德トイフヲコナヒ人、十二年ヲコナヒタル所也、日本第三ノ靈驗所トソ、一ハ熊野、二ハ金峯山也、コノ大德ヲハ泰澄法師トモイフ、又金鎭法師ト云、越後國古志郡ノ人也、白山ヲコナヒテ、次ニ此所ニキタレリ、一擡手半ノ金銅ノ千手觀音ヲ、本尊ニテ、身ヲハナタスイタヽキマツリケルヲ、此所ノヒツシサルノ方ニ桂木ノアリケルヲ切テ、自手等身ノ千手觀音ヲ作テ、此金銅ノ佛ヲ籠タテマツリテ置之タル也、コノ人ハ唐ヘワタリテ、カレニテウセニケリ、此寺ノ護法ハ熊野ノ權現・金峯山ノ藏王・白山ノ權現・長谷寺ノ龍藏權現也、龍藏ハ大德カノ寺ニマウテヽ、歸ケルニ、隨逐シ給ケレハ、イハヒ奉ルトソ、清瀧權現ハ地主ニテオハスル也、三井寺ノ叡効律師トイフ人、コノ寺ニ二三年オコナヒテ、無言ニテ法華經ヲ六千部ヨミ講シキ、夜コトニ三千反拜シケリ、サテ堂ノヒツシサルノ桂木ニノホリテ、我不愛身命、但惜无上道ト誦シテ、谷ヘ身ヲ投ケレハ、護法袖ヲヒロケテウケトリテ、ツユチリコトナカリケリトソ、コノ事一定ヲシラス、此人ハ、後一條院東宮ニオハシケルトキ、ワラハヤミヲワツラヒ給ケルニ、參テオトシタテマツリテ、御衣給リテ律師ニナサレケリ、マカリイテヽ後、發給タリケレハ、勸賞アマリトシト時ノ人申ケリ、叡効カ後、此所ヲコナフ人タエニケリ、

正法寺ニ修行スフ三ヲ華無言ニ谷千讀經六千ニ之身ヲ毎夜部法ヲ受護投行止ズルトノ説話ム

師錬ノ贊

〔元亨釋書〕十二 忍行五　釋叡効、早入園城(マヽ)寺學教法、後聞石間寺觀世音靈感往彼、晝絶佗語讀法華三千部、夜禮像各三千拜、六時修法華密供、過三歲、已回此淨業、爲安養資、便上道場西南大葛樹投身、時神人以袖受効、不下地、置別處、効又投、神又受、如是三度、効思時之不至、歸三井(マヽ)、朝廷聞之授僧官、此像泰澄法師之所刻、葛樹者像材之餘枿也、

贊曰、梵網曰、剝皮爲紙、刺血爲墨、折骨爲筆、書寫佛戒、楞嚴曰、其有比丘、發心決定、能於如來形像之前、身然一燈、燒一指節、及於身上爇一香炷、我說、是人無始宿債一時酬畢、乃至若不爲捨身微因、縱成無爲、必還生人酬其宿債、法華曰、若欲得菩提者、能燃手足一指、供養佛塔、勝三千大千珍寶供養、諸修多羅此類多矣、故先佛救鴿飼虎、七處受刄、千瘡然燈、不勝枚擧焉、是大士忍悲交發之見者也、不然爭知吾堅志確操乎、又夫烈士之赴難也、猶遊戲娛嬉者何、彼蹈義而不移耳、烏乎義者道之一岐也、彼尙奮勵感激者若斯、況與道爲期乎、宜哉、諸子萬苦千楚、不磷不緇乎、蓋與道爲期也、是以○中略投身也、神人袖披、○中略善哉佛子、健忍深悲者乎、

〔本朝高僧傳〕六十六 淨忍七　城州正法寺沙門叡効傳

○傳文略ス、

師贊ノ贊

贊曰、昔唐法門寺志通、上天台山華頂、拜智者道場、因覽西方淨靈瑞、願生淨刹、登大巖石、投身墮大樹中、若有人接之、通又再上巖投之、落于巖下蒙茸艸上、不能終死矣、効公亦心誠求之、則得至乎天龍負翼、不損一肢矣、此皆大心士之事也、今長安輕薄之士、不知其所據、祈私願於淸水觀音殿、投自臺樹而死者、往往聞之、愚夫之惑也、偏至于玆矣、

〔東國高僧傳〕九　三井(マヽ)寺睿効傳

○傳文略ス、

性澂ノ贊

系曰、三井(マヽ)効公、如是課經、如是禮佛、如是志願、以至登樹投身、蓋忻厭之極故也、與夫口談淨土而心戀娑婆者遠矣、雖然修淨業人、學其課經可也、學其神(體カ)佛可也、學其志願可也、不必學其投身、若修淨業必取其投身、則蓮社無噍類矣、請思之、

○叡効示寂ノ日、彰考館本僧綱補任等ニ據リテ揭書ス、叡効、藤原頼通ノ病ヲ加持スルコト、長和四年十二月十二日ノ條ニ、藤原道長ノ病ニ際シテ、五壇法ノ阿闍梨ト爲ルコト、寛仁二年閏四月十六日ノ第二條ニ、無量壽院ノ落慶供養ニ、散花ヲ勤ムルコト、同四年三月二十二日ノ條ニ見ユ、

大日本史料　第二編之十六

昭和四十一年三月二十五日發行

價　一、八〇〇圓

編纂者　東京大學史料編纂所

發行者　東京大學

印刷者　株式會社精興社
代表者　白井倉之助

發賣所　財團法人　東京大學出版會
振替口座　東京五九九六四番
電話小石川(811)八八一四番

コロタイプ印刷　株式會社　大塚巧藝社

製本　株式會社　松岳社

著作權所有